

# 東日本大震災支援活動報告書

平成 24 年8月

鎌倉市防災安全部

## 報告書の発行にあたって

平成 23 年 3 月 11 日、午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）は、同時にこれまでの想定を大きく上回る大津波を誘発し、岩手県、宮城県、福島県の東北三県を中心に、関東地方の太平洋沿岸にまで甚大な被害をもたらしました。

震災・津波からすでに 1 年 5 カ月以上が経過しましたが、大震災、大津波の爪痕は依然として残っています。被災地では、新たなまちづくりや都市基盤の再整備、そして産業の再開など、今まで経験したことのない大きな課題に直面しており、復旧・復興への道は険しい状況にあります。また、福島第一原子力発電所事故では、水素爆発により放射性物質が放出され、その被害・影響は福島県だけでなく、関東地方など広範囲に及んでおり、除染活動を含めその収束は目途が立っていません。

一方、発災後、多くの被災者が全国各地に避難されています。鎌倉市内への避難者数は 7 月 18 日現在、70 世帯 171 名（防災安全部の把握分）で、市は、阪神・淡路大震災の経験から、独自の救援募金活動を実施し、市の予算と併せ、被災者・被災地支援事業に取り組んできました。

また、被災地の復旧・復興では、全国のボランティアが目覚ましい活躍をしています。被災直後から、多くのボランティアが現地入りし、支援物資の提供、炊き出し、瓦礫の撤去、側溝の泥出しなどに従事しました。そうした中、鎌倉市民の支援活動は素早いものがあり、大津波による行方不明者の捜索が続き、余震が発生している段階から、早くも支援活動が開始されました。以後、続々と支援の輪が広がり、市防災安全部が把握しているだけでも、100 を超える団体・個人がたびたび被災地を訪れ、支援活動に従事されています。その活動内容も幅広く、上記の他、被災児童への支援、被災ペットの運搬、仮設住宅内の裁縫教室の開催などにも及んでいます。

これまで、市は、支援活動団体・個人による報告・意見交換会を二度開催し、情報交換や連携に努めてきました。このたび、これまでの支援活動状況を報告書としてとりまとめました。今後の活動に役立てていただければ幸いです。

私たちにできることは、この大災害を決して忘れず、被災地・被災者へ息の長い、粘り強い支援を続けることです。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

平成 24 年 8 月  
鎌倉市防災安全部

## 東日本大震災支援活動報告書・目次

### (団体活動)

1 (株式会社)大川商店	P. 1
2 大船建築職組合	P. 3
3 鎌倉建築組合	P. 4
4 鎌倉市職員ボランティア「いざ鎌倉隊」	P. 5
5 鎌倉市役所職員課	P. 7
6 鎌倉とどけ隊	P. 9
7 (仮称)みんなでつくろう湯たんぼの会	P. 10
8 NPOコソガイ	P. 11
9 SURF90 鎌倉ライフセービングクラブ	P. 13
10 自由の森学園高校	P. 15
11 チーム FIMO(吹野災害ボランティアチーム)	P. 17
12 手仕事の会	P. 19
13 紙芝居クラブ「虹のひきだし」	P. 21
14 日本共産党三浦半島地区委員会鎌倉市委員会	P. 23
15 (有)小宮造園土木	P. 25
16 NPO 法人フラワーピープル	P. 26
17 三菱電機労働組合鎌倉支部	P. 27
18 日蓮宗 薬王寺	P. 28
19 NPO法人全国てらこやネットワーク	P. 29
20 カトリック雪ノ下教会「震災復興支援プロジェクト」	P. 31
21 全国訪問ボランティアナースの会キャンナス被災者支援チーム東北 (一般社団法人キャンナス東北)	P. 33
22 七里ガ浜発 セツ浜復興支援隊	P. 35
23 鶴岡八幡宮 槐の会(鶴岡八幡宮職員有志含む)	P. 37
24 鎌倉ワイズメンズクラブ	P. 39
25 社会福祉法人 鎌倉市社会福祉協議会	P. 41

### 個人活動

26 片山 直文	P. 43
27 下田 一輝	P. 44
28 北山 文也・北山 真理子	P. 45
29 藍 智子	P. 47
30 秋本 宏	P. 49
31 武石 孝	P. 50

### 資料

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	株式会社大川商店
2 団体設立年月日	年 月 日
3 代表者名	代表取締役 大川雅充
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>・活動開始 H23年4月6日から 活動中</p> <p>・活動場所 仙台宮城野区高砂1-3-9・志津川高校避難所・岩手県山田町</p> <p>・活動内容 第1回目～3回目 仙台宮城野区高砂1-3-9へ支援物資を届ける 第4回目～13回目までは、ほぼ志津川高校避難所へ支援物資を届ける。 その間、鎌倉とどけ隊の浜人祭に参加。志津川高校避難所で一度炊き出しも行った。 11月には福島から鎌倉へ避難されてきた方達をお呼びしてBBQを開催。 また、福島の被災者へ寄付金をお渡しいたしました。 H24年5月に山田町の被災者から頼まれ、署名活動を行う。また、第14回目 5月17日に南三陸町へトイレットペーパー、BOXティッシュ他 支援物資を届ける。</p>
5 今後の活動予定	鎌倉市へ避難している被災者達へのボランティア活動。引き続き支援物資の運搬などを検討中。
6 自由記載欄	
7 連絡先等	



(団体用)

### 東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	大船建築職組合
2 団体設立年月日	昭和 28 年 1 月 22 日
3 代表者名	清田 正明(平成24年5月20日就任)
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<ul style="list-style-type: none"><li>●活動期間:平成23年6月5日(日)~6月7日(火)</li><li>●活動場所:岩手県上閉伊郡大槌町小槌22-46大槌ふれあい運動公園野球場</li><li>●活動内容:まないた600枚を製作、励ましの言葉を紙に書き1枚ずつ付け、車3台12名で現地に届けました。6月19日フリマーケットにて無償で配られたそうです。支援物資リストは次頁へ記載しました。</li><li>●平成23年7月16日 大船から大船渡へ 岩手県復興支援イベント 二人用ベンチ、巣箱、本立て、まな板、植木台を売り上げた41,800円を寄付しました。</li><li>●支援物資リスト:まな板600枚/だしの素30箱/塩こしょう80本/天ぷら粉30袋/トング20個/キッチンバサミ16個/衣類漂白剤(1.5ℓ)12本/紙皿(18cm)500枚/入浴剤粉末(800g)10個/ゴミ袋(90ℓ)200枚/ウォータージャグ(6ℓ)5個/バリカン4個/衣類防虫剤10袋/男性用TシャツまたはポロシャツM,L,LL各サイズ10枚/女性用TシャツまたはポロシャツM,L,LL各サイズ10枚/女性用サンダルS,M,L,LL各サイズ16足/ハンガー44本/三角巾M,L各サイズ10枚/衣類ケース2個/ちりとり50個/タオル200本/衣類/洗面用具/手袋・マスク/カップラーメン/ティッシュペーパー・トイレトペーパー</li></ul>
5 今後の活動予定	引き続き組合にて募金を受付けております。
6 自由記載欄	出来れば励ましの言葉と共に1軒ずつまな板をお届けしたかったのですが、仮設住宅が出来てなかったので出来ませんでした。大船建築職組合・鎌倉建築組合の災害ボランティアの様子を1冊のファイルにまとめ、鎌倉市役所震災支援担当課、鎌倉商工会議所、大船建築職組合、鎌倉建築組合に置いてあります。どうぞご覧下さい。鎌倉市で支援イベントがありましたら、是非参加したいと思っております。
7 連絡先等	大船建築職組合 震災支援担当 清田 正明

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	鎌倉建築組合
2 団体設立年月日	年 月 日
3 代表者名	組合長 立川雄蔵
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>・活動期間 平成23年4月7日～14日</p> <p>・活動場所 石巻市</p> <p>・参加人員 組合員17名</p> <p>・活動内容 がれき・汚泥撤去等の復旧作業</p> <p>・活動経緯 3月16日に、震災対策会議を開催し、復旧支援に組合員派遣を決定した。石巻市が、県外からの復旧ボランティアを公募中であることが判明し、連絡をとったところ、復旧支援要請が入った。</p> <p>3月30日に、高野副組合長が先遣隊として事前に現地調査入りし、被災地の現状掌握に努めた。</p> <p>4月7日早朝、車4台で鎌倉を出発し、専修大学石巻キャンパスには午後3時に到着。同グラウンドにテント張の本部を設営し、活動を開始した。17名の組合員により、被災直後の石巻市の道路復旧丸太、汚泥、パルプなどの撤去、イカの廃棄に取り組んだ。悪臭や粉じんの中で、懸命な作業に従事した。</p>
5 今後の活動予定	
6 自由記載欄	「若い組合員に現地を自分の目で見てもらいたい」(副組合長)
7 連絡先等	鎌倉市常盤652

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	鎌倉市職員ボランティア「いざ鎌倉隊」
2 団体設立年月日	平成 23 年 5 月 27 日
3 代表者名	小磯 一彦
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	6/25 石巻市避難所への炊出し支援 石巻市避難所へのやさい、果物等の提供、物資の提供 石巻市被災状況の視察 6/26 南三陸町避難所への炊出し支援 南三陸町避難所へのやさい、果物等の提供 南三陸町被災状況の視察 7/9 石巻市への物資搬送 石巻市被災状況の視察 7/10 大船渡市からのイベント物資の搬送(津波注意報発令により中止) 陸前高田市被災状況の視察 大船渡市被災状況の視察 7/23 南三陸町避難所への炊出し支援 石巻市被災状況の視察 8/27 陸前高田市復興街づくりイベントへの参加 8/28 大船渡市仮設住宅への物資搬送 11/23 山元町復興支援イベントへの参加 3/11 七のころをわすれない(七ヶ浜復興支援イベント)への参加
5 今後の活動予定	今後は肉体労働的なボランティアなど被災地のニーズを把握しながら実施していく予定です。
6 自由記載欄	我々のグループは、阪神淡路大震災でボランティア活動を行った職員と今回石巻市の避難所にて運営スタッフをしてきた職員が、何らかの形で被災者の皆さんの支援をしたいという思いと、市職員として被災地を直接見て、ボランティア体験することは大変有意義であるという考えから、鎌倉市職員ボランティア「いざ鎌倉隊」を結成し、活動を行っています。 これまでの活動内容は、炊出し、物資の提供と被災地の視察であるが、今後は肉体労働的なボランティア活動など被災地のその時のニーズに合わせて活動場所や内容を検討していきます。 活動状況は、ツイッター(izakamakuratai)にて更新しているのでご覧ください。
7 連絡先等	ツイッター(izakamakuratai)へのDM対応します。





石巻市での炊き出しの様子



南三陸町での炊き出しの様子



石巻市・南三陸町への支援に参加したメンバー

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	鎌倉市役所職員課・(新採用職員追研修)
2 団体設立年月日	平成23年10月1日
3 代表者名	職員課 三ツ堀弘
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	(1)活動日 平成23年10月7日 (2)活動場所 宮城県石巻市湊小学校ボランティアセンター (3)活動内容 7:45 湊小学校ボランティアセンター着 8:00 活動内容の確認と準備 チーム神戸金田氏より説明受ける。事前に3グループに班分けし、リーダー・副リーダーを決めておき、名簿は事前を送付済み。 1グループ(10名)は松厳寺の申し入れで片付け手伝い。 2・3グループ(22名)は側溝の泥だし作業。 8:30~12:00 作業開始 ボランティアセンターより徒歩5分の場所 13:00~14:00 作業開始 15:00 湊小学校出発
5 今後の活動予定	なし
6 自由記載欄	
7 連絡先等	



鎌倉市役所職員課・(新採用職員追研修)

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	鎌倉とどけ隊
2 団体設立年月日	23年 3月 30日
3 代表者名	森下 真司
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<活動期間>:3月30日～現在 <活動場所>: ・宮城県、石巻市、気仙沼 ・岩手県、陸前高田、大船渡 <活動内容>: ・炊き出し ・物資の支援と運搬 ・現地にてイベントのサポート ・商店等の復興サポート
5 今後の活動予定	引き続き上記のサポートと東北物産展の開催のお手伝い。
6 自由記載欄	私達は支援団体ではなく、交流団体を目指して、これからも長く継続してつなげていきたいと思っています。 またこの経験を鎌倉でも生かしていきたいです。
7 連絡先等	kamakuratodoketai@gmail.com

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	仮称) みんなでつくろう湯たんぽカバー の会
2 団体設立年月日	2011年 9 月 30日
3 代表者名	橋本 等
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	平成11年10月から始めた「手作り湯たんぽカバーを東北へ」の活動は、平成12年3月31日現在で2,500枚をこえる枚数を配ることができました。岩手県・宮城県・福島県・栃木県。そして鎌倉で避難生活をしている方々などです。湯たんぽカバーをお配りして行く中で、石巻の高校生が自分たちでカバーを作って、被災された方々に配ろうという活動が生まれました。また、地域によっては仮設住宅の集会所やNPOの建物などで「おちゃっこサロン」などのような集まりの場でカバーづくりなどをしたいとの声があり、ミシンの募集をしました。その結果、工業用・商業用ミシンが3台。一般用ミシンは20台以上を大槌・一関藤沢・石巻などへお渡しし、現地で作品づくりが始っています。同時に生地募集を呼び掛けたところ、買い置きして使わなかった生地や、着物生地、母親の遺品で何かに活用したいと思っていた生地など、大量の生地や裁縫用具も集まり各地へ送ることができています。 このほかにストーブやこたつ保温マットなどの防寒用品など支援品のカンパが集まりました。湯たんぽカバーの回収については、鎌倉周辺の方の場合は極力受け取りに行っています。できるだけ私がお伺いして顔を見せ、お礼を伝えたいと思っています。また、送料の削減も大切なことだと考えています。私自身は昨年4月以降は11月と今年3月～4月にかけて現地へ行き活動をしています。今年8月にも宮城～岩手へ行く予定です。
5 今後の活動予定	今年の春から現地での手作り応援をしています。カンパしていただいた生地を現地の要望に合わせて送っています。湯たんぽカバーを配る活動は10月から再開します。4月上旬に東北各地へ伺い各地でこの活動を支援してくださっている方々と打ち合わせをしてきました。湯たんぽを必要とする方はまだまだいらっしゃるようです。また、湯たんぽはあるが手作りカバーはありがたい、という方もいらっしゃるようです。現地でのカバー作成の応援もしてゆきたいともっています。いずれにしても、カバーを配ることやカバー作りを一つの道具として、人と人との交流のきっかけになってくれることを願っています。
6 自由記載欄	湯たんぽカバーづくりは、小学生からお年寄まで、幅広い年代の方が参加してくださっています。保育園や学校のPTA。町内会や老人会。女子の中高校生。そして60～80歳代の方々。特にその年代の方は湯たんぽ経験者ばかりで、カバーの実用性がとても高く販売してもおかしくないようなものがたくさんありました。また、その年代の方から「ありがとう」の声をいただきます。最初はカバーを作って下さった方からの声に少し戸惑いがありましたが、今回の震災で自分も何かしたいと思っていたけれど何もできなかったが、この活動なら参加できると、多くの方から声をいただきました。この声は現地へもお届けしています。湯たんぽカバー活動を通して届いた声(現地からの声やカンパをしてくださった方からの手紙など)をまとめた「湯たんぽ通信」を作って双方向の交流のため発信しています。
7 連絡先等	フェイスブック「橋本等」で検索できます。



(団体用)

### 東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	NPOコソガイ
2 団体設立年月日	1999年5月
3 代表者名	入江麻理子
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	4月22日～25 石巻市 引っ越し支援、かたづけ等(石巻ボランティアセンター紹介) 5月6日～10日 石巻、気仙沼、岩沼(がれき撤去、引っ越し手伝い)  6月24日～27 石巻、南三陸(引っ越し手伝い)  主な活動は、ボランティアセンターを通じたがれき撤去、引っ越し手伝い。作業終了後、自主的に避難所、仮設住宅にて慰問袋配布、傾聴、声かけボラを行う。  6月～1月 子ども向け災害準備のチラシとアニメ(DVD)制作、 2月 市防災課、こどもみらい課の協力で市内小学校、幼稚園、保育園に配布。 2月27日 鎌倉みどり幼稚園にて、防災講座(市の防災課の協力)開催
5 今後の活動予定	今後は、被災直後のまちを見た経験から、鎌倉で地域の防災を考える活動に軸足を移したい。 こども向けに防災アニメDVD「にげろ」を制作(鎌倉市総合防災課のご協力による)。今後は、保育園、幼稚園、小学校でのDVD上映通して「地震への備え」を訴えていく。またインターネット上でも公開し、子育てファミリーや地域の高齢者へさらなる防災支援を行う予定。 防災アニメ「ひげろ～ひとりごと 番外編、準備編～」: <a href="http://www.youtube.com/user/hiro4250">http://www.youtube.com/user/hiro4250</a>
6 自由記載欄	4月の活動報告(鎌倉子育てガイドに掲載) 石巻でのボランティア報告 被災された皆さんに、何かできることをとっていました。お話があって有志の3人とともに4/23、24被災地の石巻に行きボランティア活動をしてきました。 現地では海側の被災した地域のダメージの大きさに圧倒されました。無傷の建物は一つもありません。1、2階は壊滅状態。巨大なタンクが流され、何十台もの車が流れて重なったり建物に刺さったり。船が陸の上になり、鉄道の線路はぐしゃぐしゃに折れ曲がり、ガレキの山が万里の長城のごとく続いていました。 同時に復興の早さにも驚きました。津波が2メートルの高さで襲った住宅地域の道一つ隔てたお隣(たぶんそこも津波には床上浸水程度やられたのだと思います)にはライフラインが復旧し、コンビニもファミレスも今まで通り開いていました。 避難所にうかがうとお年寄り子どもがいました。鎌倉から用意してきた手さげ袋(慰問袋)を手渡すと、中身をあげて大喜びする子がいる一方、不満を言う女の子もいました。でも幾度も幾度もわたしのところに寄ってきます。「かまってほしかったのだ」と気がつきました。 19歳の少女がいました。3日前、お誕生日を迎えたのだそうです。お誕生日祝いに、と鳩サブレと袋を手渡すと、顔をほころばせました。彼女もまた、多くを失っていたのだと思います。袋に入っていた口紅を見つけると、息をのんで握りしめました。就職口が見つかり、5/1から勤務なのだそうです。「きつとつかいます。うれしいなあ」とつぶやきました。 花の種には「わたしここに植えたいです。お花、見たいな」と。 家のある住宅地を津波が襲い、歩道橋に逃げて助かった女性のお引っ越しを手伝いました。家は2メートルの冠水で壁が壊れていました。危険地域にも指定され、自衛隊の重機が地域の全半壊の家を壊していました。「お向かいのお宅では1人亡くなったんです。あちらは2人。こちらでは5人が発見されました。わたしの家は津波に襲われました。あらゆるものがあつたけど全部泥で使えない。なんだったのかしらね。でも、生きていられて良かった。みなさんが来てくれて良かった。」 わたしたちは石巻では自然の猛威とともに、市民の皆さんの人に配慮する優しさや、モラルの高さ、まちへの思いを感じました。それは希望です。温かかったです。短時間で手作りの袋や、その中身(タオル、ティッシュ、文具、花の種など)をご用意くださった鎌倉の皆様にご心よりお礼を申し上げます。被災地のみなさまに手渡しすることができました。一日は嵐の中でしたが、おかげさまで良い汗をかかせていただきました。復興の猫の手ぐらいのお役には立てたと思います。以下は、袋を受け取った方からのお礼の書き込みです。コソガイの掲示板にお寄せいただきました。わたしが帰るより早くに、こんなお礼をいただくとは思いませんでした。 東北の方は、なんと温かい！
7 連絡先等	staff@kosogai.com



(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	SURF90鎌倉ライフセービングクラブ
2 団体設立年月日	1999年 4月 1日
3 代表者名	松井 宏泰
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>当クラブでは、東日本大震災の被災地である気仙沼市及び釜石市の復興の一助となるため、気仙沼・釜石復興支援プロジェクト【Human Chain Project(※1)】を立ち上げました。ビーチパトロール支援やジュニアライフセービング教室の共催で親交のあった気仙沼市の「宮城ライフセービング協会」と、現在も当クラブの会員が代表を務める「釜石ライフセービングクラブ」のそれぞれの活動拠点において、ライフセーバーを擁し安全に安心して遊べる海水浴場を取り戻すこと、更にはジュニアライフセービング教室を再び開催できる環境と夏の海水浴場に子供たちの笑顔と歓声を取り戻すことを最終目標として支援活動を行っていきます。</p> <p>※1:Human Chainとは、ライフセービングの救助方法のひとつで、救助者(ライフセーバー)同士が互いの手首を掴み一列となって水没者を捜索する方法です。決してお互いの手を離さないようにするためのこの方法を、被災地と共に「復興」という目標に向け強い絆を深める意味を込めて、今回のプロジェクトの名称としました。</p> <p>これまでの活動実績は以下の通りです。</p> <p>【2011年6月24日～6月27日】 気仙沼市において、気仙沼市災害ボランティアセンターでの瓦礫撤去、並びに気仙沼復興協会が進める震災復興関係事務所開設のための建物室内清掃と家具の移動等の作業を行う。</p> <p>【2011年7月17日～7月20日】 釜石市根浜海岸で作業に関する打合せ、及び南三陸町歌津でRQ市民災害救援センターの復旧作業に参加する。</p> <p>【2011年8月10日～8月12日】 気仙沼市災害ボランティアセンターでの瓦礫撤去作業を行う。</p> <p>【2011年8月15日～8月19日】 釜石ライフセービングクラブの活動拠点となる根浜海岸管理センター内の復旧作業並びに周辺海岸の瓦礫撤去作業を行う。その後、南三陸町歌津でRQ市民災害救援センターの復旧作業に参加する。</p> <p>【2011年秋以降、適宜実施】 2012年8月5日(日)釜石市根浜海岸においてトライアスロン大会再開につなげるためのイベント「釜石はまゆりオープンウォータースイム」の開催が決まり、その準備協力や情報発信の支援などを行っている。</p>
5 今後の活動予定	<p>気仙沼市においては、一般社団法人復興支援機構が進める復興屋台村開店支援など、当面は地域の復興支援を中心に行っていく。</p> <p>釜石市においては、2012年8月5日(日)根浜海岸で開催される「釜石はまゆりオープンウォータースイム」における水上での競技者の安全管理などの支援を行っていく。</p>
6 自由記載欄	<p>当クラブは、鎌倉市七里ガ浜海岸で水辺の事故防止と安全思想の普及を目指して次のような活動を行っているライフセービングクラブです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・七里ガ浜における海浜パトロール活動</li><li>・海浜イベント時のパトロール及び運営</li><li>・ライフセーバー育成事業</li><li>・ライフセービング広報・啓蒙活動</li><li>・ビーチクリーン活動</li></ul> <p>詳細はホームページをご覧ください。 <a href="http://surf90kamakura.jp/">http://surf90kamakura.jp/</a></p>
7 連絡先等	surf90kamakura@gmail.com

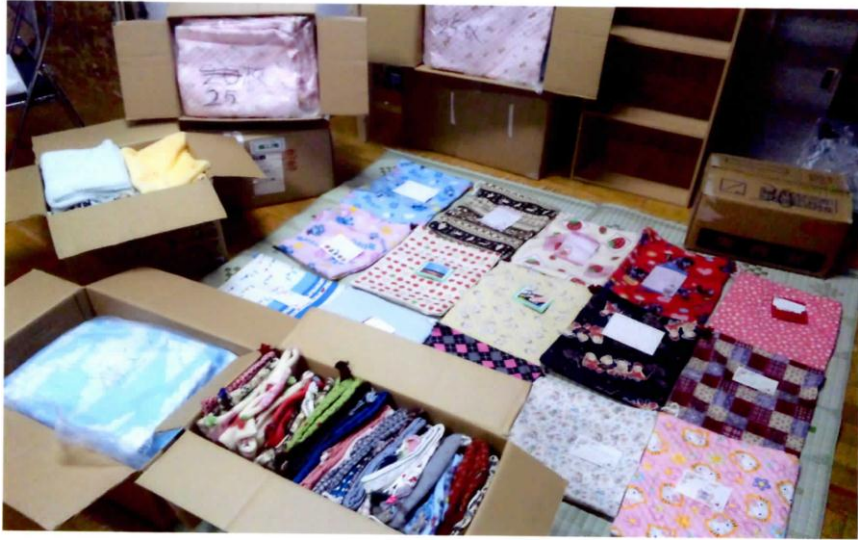




(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	自由の森学園高校
2 団体設立年月日	2011年 4月 1日 (NGO講座立ち上げ)
3 代表者名	岩田 薫
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	①・2011年7月28日(木)～7月30日(土) ・宮城県石巻市内 ・ピースボート災害支援本部(石巻)を基地に、2泊3日高校生23名、□教員4名が支援活動を展開した。 ・7月29日は石巻市鹿妻地区で側溝泥の掻き出し作業。 ・7月30日は、1.石巻動物救援センターでのペットの保護活動 2.石巻市立橋浦小学校での物資配布活動 3.石巻市立北上中学校で4か月遅れの卒業式の手伝い等を展開 ②2011年10月～12月鎌倉市のボランティアグループに協力し宮城岩手の仮設住居に湯たんぽカバー(手作り)を届ける活動を展開。 湯たんぽカバーに高校生のメッセージをつけて約200個届ける。 ③2011年12月～2012年2月岩手の被災者に手紙を届け交流。 ④2012年3月生徒、父母の協力でベルマークを集め被災地に文房具を届ける活動を展開。
5 今後の活動予定	・2012年7月に高校生、教師と神奈川東日本大震災ボランティアステーションを通じ岩手宮城に2泊3日の支援活動を実施。遠野の金太郎ハウスに宿泊予定。 ・2012年8月福島県内の小学生を招き交流。 ・2012年9月被災地から神奈川に移り住んだ高校生と交流。支援活動を行なう。 ・2012年10月海外から被災地に支援に入っている外国人ボランティアを招き交流予定。
6 自由記載欄	・学内で2度被災地支援報告会を開催した。(2011年9月、11月) ・高校生たちが支援の会「ぼっぼの会」を自主的に作りベルマーク収集活動を展開。(今年度も実施) ・湯たんぽの手作りカバーは今後も制作していきたい。
7 連絡先等	





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	チームFIMO(吹野災害ボランティアチーム)
2 団体設立年月日	平成23年5月19日
3 代表者名	吹野昇治・飯野眞毅
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	活動期間:平成23年11月12日(土)～13日(日) 活動人数:5名 活動場所:岩手県宮古市 活動内容 ・11/12 東日本大震災の際に、宮古湾に来襲した津波が津軽石川を遡上した際に大森川に流れ込んだ土砂や災害ごみ(漁業道具、ガラス、木材など)の搬出、清掃を行いました。場所は大森川救急内水排水機場付近でした。津波により大森川に土砂や漁業道具などが運ばれてきていた。大きなものについては既に撤去されているようであったが、川底に溜まった土砂やその中にガラスや廃材などが埋もれており、それを籠に入れて引っ張り上げ、土のうに詰める作業でした。 9時宮古市福祉センター(宮古市生活復興支援センター)集合、オリエンテーション後に現地出発、15時まで作業する。  ・11/13 東日本大震災の際に、宮古湾に来襲した津波が津軽石川を遡上した際に大森川に流れ込んだ土砂や災害ごみ(漁業道具、ガラス、木材など)の搬出、清掃を行いました。場所は大森川救急内水排水機場付近でした。9時宮古市福祉センター集合、オリエンテーション後に現地出発、13時まで作業する。
5 今後の活動予定	約1年以内に再度行く予定
6 自由記載欄	二日目に地元消防団の方々がボランティアメンバーに大森川救急内水排水機場を案内してくれた。津波により津軽石川にある水門が上部のコンクリートの部分を残して水没し、水門を閉鎖に行った消防団の方はコンクリート部分に上り難を逃れたという話は衝撃でした。初日ボランティア終了後に普代村の大田名部堤防や普代水門を、二日目ボランティア終了後には宮古市田老地区ある堤防(万里の長城)を見学しました(二回目)。
7 連絡先等	cbml101@yahoo.co.jp



(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	手仕事の会
2 団体設立年月日	H23年10月
3 代表者名	富田 英子
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>■活動期間:H23年10月より2年間(仮設住宅がある間)</p> <p>■活動場所:南矢野目仮設住宅(浪江町) 福島県福島市南矢野目中谷地33</p> <p>■活動内容:「大人のための支援と交流」を目的としています。月2回、布草履や小物を作っていますが、講師をお願いした伊達市在住の主婦キクコさんとマツコさんの協力を得て毎回盛り上がりあつという間の2時間です。昨年末から私たちのようなボランティアはいなくなり私たちのみになってしまいました。今年4月からは浪江町からの支援を打ち切られると知った会員さん方がこれからも何とか続けてほしいと二本松市にある浪江町仮役場に出向き、半年に一回のみ5,000円の支給のため生涯学習出前講座の手続きをしてくださり受理されました。いつか会員さん方が自立するための自主性の支援も目的であり、もう少し時間がかかりそうと思っていましたがいけない積極性にやりがいを感じました。会員さん方も布草履や小物など自分の作品が身内や友人に評価され、作ってほしいと依頼されるようになり張り切っています。自身が必要とされていることで生きがいにつながっているようです。</p>
5 今後の活動予定	<p>続けることの大切さを身にしみて感じています。春になってから若い家族が数組入居したようで、乳幼児や小学生を見かけるようになり子どもの洗濯物が干してあるのも見えます。5, 6人の子供が住み始めたようです。その反面長引く避難生活で心身ともに荒れてゆく家族も少なからずで、パトカーの出動も見聞きするたびに他人事とは思えず心が痛みます。</p> <p>手仕事の会のメンバーは『私たちは集中し楽しみながら辛い冬を何とか越した。これからは何もすることがなく引きこもったり身体を持て余している男共(失礼)のために男の料理教室のようなものを始めたい。そのためにはまず、手作り料理をごちそうすることから!』と張り切って第1回目を催したようです。</p> <p>私の知らないところの「手仕事の会」のようでトラブルを避けるためにも会の名前を変えてもらいたいと浪江町と相談をしている最中です。出来る限り続けお互いの将来の希望に繋いでゆきたいと願っています。</p>
6 自由記載欄	<p>読売新聞社からの紹介で都内在住の書道家さんより被災者さんへ届けてくださいと日めくりカレンダー150部託されました。宮城県、岩手県の被災者さんも是非お届けしたいと《鎌倉とどけ隊》の協力をいただいています。こうして少しでも自分のできることで役立つことができるよう願っている人の輪が広がっていることを実感しています。(書道家さんとの新聞記事添付いたします)</p>
7 連絡先等	PCメール:tomita-e@kamakuranet.ne.jp





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	紙芝居クラブ「虹のひきだし」
2 団体設立年月日	2010年4月1日
3 代表者名	町田 剛
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>・5月12日 NPOだんだんカフェ(東京都墨田区)を応援し、だんだんカフェの長期滞在ボランティアスタッフを石巻市雄勝町大須小学校避難所へ支援物資と共に輸送。5月28日雄勝復興市にて紙芝居口演。7月13日鎌倉みどり幼稚園から机や椅子を陸前高田市の駒寄保育園に届ける。また、これ以外にも6月から現在に至るまで、雄勝町に二週間程の滞在を含めて10数回ボランティアに入っています。また、仮設住宅・借り上げ住宅等の声を聞き10月からはホームページやインターネット被災者支援マッチングサイト等で冬物などを募り、雄勝町や亘理郡山元町の仮設住宅などへ全国から託された支援物資を配布しています。</p> <p>・今年より物資支援から復興支援へとシフトし、雄勝町の仮設店舗「おがつ店こ屋街」で毎月行われている復興市やイベントの運営側に参加手伝いさせて頂いています。</p>
5 今後の活動予定	被災地に拠点を作り、現地に密着した活動を目指しています。また、引き続き各仮設住宅などに出向き紙芝居を通して心の支援も行う予定です。
6 自由記載欄	ブログ「虹のひきだし」&ホームページ「虹のひきだし」で当方の活動が確認できます。
7 連絡先等	ホームページ「虹のひきだし」 <a href="http://www.geocities.jp/denkioj3/niji">http://www.geocities.jp/denkioj3/niji</a> Eメール nijinohikidashi-kai@yahoo.co.jp





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	日本共産党三浦半島地区委員会鎌倉市委員会
2 団体設立年月日	年 月 日
3 代表者名	吉岡 和江
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>活動期間は2011年5月から開始し、冬期間を除き、2012年5月現在、救援活動を再開しています。宮城県石巻市域を中心に活動中です。東日本大震災を受けて、地元の党議員が救援活動をただちに開始するとともに、事務所を借り上げて全国からの救援物資や救援ボランティアを受け入れるための本格的な震災救援センターを立ち上げました。神奈川・東京・千葉の党組織は、宮城県石巻市に開設された宮城県東部地区震災救援・復興センターへ一定期間現地で支援活動を指揮する人員の派遣をするとともに、2泊3日を基本に救援ボランティア活動できる方を広く募集しています。この活動は有志の方からの募金で交通費や宿泊などの経費をまかなっています。</p> <p>昨年10月5日までに第4次のボランティアを派遣しました。現地では、当初、被災家屋の泥だしやがれきの撤去作業が中心でしたが、今は避難所・仮設住宅・自宅避難者への救援物資の配布や要求の聞き取り調査などです。1日の活動は、8時半にセンターに集合し、午前・午後の活動スケジュールの説明を受け、物資の車への積み込みや作業の準備をしてから車に分乗して現場に向かいます。午後4時までにセンターへ戻り、感想や意見などを活動報告書に記入して車で40分ほどの宿泊先へ向かいます。途中食材を買い込んで食事をみんなで準備し、お互いの経験を交流し、全体の活動に活かしています。</p>
5 今後の活動予定	<p>ボランティア参加者を募集中です。 参加希望者の日程との調整を行い、活動計画を立てて実施します。</p>
6 自由記載欄	<p>ボランティア活動を希望する方なら誰でも参加ができます。</p>
7 連絡先等	<p>連絡・問い合わせ先 日本共産党三浦半島地区委員会 電話046-851-1123 日本共産党鎌倉市会議員団0467-23-3000(代表)内線2431 議員団メールアドレス info@jcp-kamakura.jp</p>



震災から4カ月以上になりますが、日本共産党は、現地の救援・復興に全力をあげています。鎌倉の党からは3回目の救援ボランティアとして、8月1日から3日まで、吉岡・赤松・高野議員、早川さん（深沢地域）の4人で支援活動を行いました。

## 夏を迎え被災地の現状は依然として深刻 粘り強い支援活動で共産党の本領発揮

共産党からのボランティア参加者は全国で1万1千人以上で、文字通り全国規模での支援となっています。鎌倉からは今回で3回目の支援で、高野議員が2回目、赤松・吉岡両議員と早川さんは初めての支援活動になりました。今回も石巻市（宮城県）の党救援センターに行き、初日には市内及び隣町の女川町の被害状況を視察した他、2日目は仮設住宅に入っている方々への物資の配布（2カ所）、3日目は墓地の泥だし・ガレキ撤去作業に従事しました。また、石巻市内も女川町内も数カ所の集積所に街中からのガレキが集められ、山積み状態になっていました（写真左）。この膨大な量のガレキをどのように処理するのか。とても自治体任せではいけないことを実感しました。

2日目の「物資お届け隊」は、全国から届けられた生活用品を小分けしてトラックに積み込んで、仮設住宅に入っている方々に物資の無料配布を行う活動です。仮設住宅の建設は進んできていますが、入居者がまだ少ないのが実態です。仮設住宅に入居すると行政から「自立」とみなされ、必要な支援が受けられなくなることや、場所的に不便地にあることなどが背景にあるようです。党の支援活動は、そうした行政の手が届かないところに手当てをしておき、現地の人々から本当に喜ばれています。お米、野菜、醤油などの食料品や身近な生活用品などが不足し、支援を必要としている方々には切実な問題です。

現地は自衛隊が撤退したなかで、民間団体などによる支援活動が行われていますが、全国的な政党では共産党だけです。民主団体（災対連）とともに、党の活動が人々の信頼を増して、ボランティアに手を合わせる人や「共産党には全く関心がなかったけど（今回のことで）本当によく分かりました」などの声が寄せられています。これからも継続して支援活動に取り組んでいきます。



仮設住宅の地域に行き、場所を確保し、物資を配布する活動。皆さんから感謝されました（右の写真は赤松議員）。



地域から集められた集積所はガレキの山になっていた。膨大な瓦礫をどう処理するのか、国の責任は重大です。



墓地もひどい状況になっており、地元の住職から依頼された墓地の泥だしや瓦礫の撤去作業に従事しました。



隣の女川町（原免所在地）も顕著的な被害



党東部地区委員会・救援センター（石巻市）

議員団ニュース  
日本共産党鎌倉市会議員団  
2011年8月7日  
鎌倉市御成町18-10  
FAX 24-3401

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	(有限会社)小宮造園土木
2 団体設立年月日	年 月 日
3 代表者名	小宮 幸二
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	(1)活動期間 平成23年4月29日～5月4日 (2)活動場所 石巻市内全般 (3)活動人員 11名 (4)活動内容 車両3台、11名で活動。 大街道地区、門脇地区において災害支援活動に従事。 ・瓦礫処分:重機を使用して瓦礫を瓦礫処分地まで運搬。 2トンダンプカーで30台分を運搬。 ・家屋解体:危険家屋を一棟解体 ・車庫修繕:崩れかかった車庫を補強 ・床下の泥:床を撤去し、泥出しを一棟実施
5 今後の活動予定	
6 自由記載欄	支援活動報告書を防災安全部に提出しましたので、詳細を知りたい方は、同部東日本大震災支援担当へお問い合わせください。
7 連絡先等	鎌倉市西御門2-6-1

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書

1 団体名称	NPO法人フラワーピープル
2 団体設立年月日	2011 年 4 月 18 日
3 代表者名	加藤 佳江子
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	〈活動期間〉:5/20以降月1~2回 3~7日間 〈活動場所〉:石巻市 〈活動内容等〉: 心と体のケアということで主にマッサージとカウンセリングを行ってきましたが、石巻ボランティアセンター絆の手伝いとしての炊き出し、泥出し、などもしてきました。独自の活動としてはアートペインティングを催してきて、今後も続ける予定です。
5 今後の活動予定	仮設住居にある集会場を使用して、アートペインティング、カウンセリングなどを毎月一度行う予定。
6 自由記載欄	ホームページのアドレス。 <a href="http://flowerpeople.org/primal-art.html">http://flowerpeople.org/primal-art.html</a>
7 連絡先等	npo@flowerpeople.org

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	三菱電機労働組合鎌倉支部
2 団体設立年月日	1963年 10月 1日
3 代表者名	岡崎 俊博
4 支援活動の内容	<p>募金活動 #1 実施時期:2011年3月 募金名目:東北地方太平洋沖地震の復興支援カンパ 対象:構内従業員</p> <p>募金活動 #2 実施時期:2011年9月 募金名目:震災遺児支援募金</p> <p>ボランティア #1 活動地域:福島県いわき市(沿岸地域) 参加者:三菱電機労働組合鎌倉支部から1名 期間:4/24~5/2(9日間) 活動内容:波によって水田に流れこんだ瓦礫(家屋や、家財道具、ブロック塀、大木、フェンス等)の撤去</p> <p>ボランティア #2 活動地域:宮城県石巻市 参加者:三菱電機労働組合鎌倉支部から20名 期間:6/10~6/12(実作業 1.5日) 作業内容:病院内(津波被害)の汚泥、瓦礫撤去</p> <p>ボランティア #3 活動地域:宮城県気仙沼市大島(離島) 参加者:三菱電機労働組合鎌倉支部から25名 期間:9/16~9/18(実作業 1.5日) 作業内容:水田に流れ込んだ瓦礫の撤去</p> <p>募金活動 #3 実施時期:2012年3月 募金名目:震災遺児支援募金</p>
5 今後の活動予定	<ul style="list-style-type: none"><li>震災遺児支援募金は3年間(2011~2013年)実施する。</li><li>上記以外の活動は明確に決まっていないが、募金活動やボランティア活動は継続して検討する。また、被災地の関連商品を構内で斡旋する等、広義の意味での支援も検討する。</li></ul>
6 自由記載欄	<ul style="list-style-type: none"><li>組織で取組むボランティア活動は、事前に受入れ側としっかり調整出来ないと企画立てが困難であるため、受入れ側の準備体制が重要であると感じた。(マッチング作業がスムーズなボランティアセンターが好まれる)鎌倉でボランティアセンターを立ち上げる事があつたら、土地感のある方をボランティアセンターに配置して頂きたいと考えております。</li><li>ボランティア受入れ関連の情報は、市のHPが最も重要な情報源であり、公開する情報や、更新頻度など、事前に運用を検討し、震災時の早期立ち上げとタイムリーな更新をお願いしたいと考えております。</li><li>非常時における公平性の考えと判断の権限についても事前に検討して頂きたいと考えております。</li></ul>
7 連絡先等	鎌倉市上町屋325

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	日蓮宗 薬王寺
2 団体設立年月日	年 4月
3 代表者名	大埜 慈誠
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	平成23年度3月 岩手県大槌町・釜石市へ支援物資運搬 瓦礫除去活動 遺体安置所供養 同年 4月 宮城県仙台市名取市 支援物資運搬 埋葬地供養 同年 5月 福島県南相馬市 支援物資運搬 遺骨安置所供養 同年 6月 福島県いわき市 支援物資運搬 遺骨安置所供養 同年 6月 宮城県女川町 傾聴カウンセリング 支援物資運搬 同年 7月 宮城県仙台市 震災後にカルト入信してしまった女性の脱会支援 同年 9月 宮城県女川町仮設住宅 傾聴カウンセリング 同年 10月 福島県いわき市 震災後にカルト入信してしまった高校生の脱会支援 同年 11月 宮城県女川町 傾聴カウンセリング カフェ提供 同年 12月 岩手県大槌町 寒冷地用品多数運搬 傾聴カウンセリング カフェ提供 平成24年 3月 宮城県仙台市一周忌法要 ならびに傾聴カウンセリング 同年 4月 岩手県大槌町 身元不明者遺骨供養 海法要 炊き出し
5 今後の活動予定	岩手県大槌町、宮城県女川町、福島県南相馬市を中心に、出来る限り月に一度のペースで入りたいと考えている。カルト的な宗教団体の勧誘活動が活発で入信者の家族が二重三重の苦悩をかかえている。それにも対応が必要であると痛感している。
6 自由記載欄	高速道路のボランティアに対する無料対策が、三月で終わったことは誠に遺憾である。四月に入ってボランティアの数が激減しているとの被災者の声を散々聞かされている。これからはもっと必要な時であると思われ、対応を検討願いたい。
7 連絡先等	mail info@kamakura-yakuouji.com ホームページ http://www.kamakura-yakuouji.com/

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	NPO法人全国てらこやネットワーク
2 団体設立年月日	2010年 6月 21日
3 代表者名	大西克幸
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	・活動期間:2011年3月23日～継続中(現在までで50回実施) ・活動場所: 福島県(田村市、会津若松市、会津美里町) 宮城県(石巻市、気仙沼市、塩釜市、南三陸町) 岩手県(釜石市、大槌町、陸前高田市、北上市、大船渡市) ・活動内容: 支援物資輸送、子どもたちに対する教育支援・生活サポート(スポーツ大会・子どもたちを対象とした現地でのキャンプの実施、鎌倉市にて開催した合宿への招待)、炊き出し、瓦礫撤去のためのボランティアバス派遣、東北・北関東物産販売等
5 今後の活動予定	・現地へのボランティアバス派遣の継続 ・現地での開催の各種イベントへの協力・被災地の子どもたちを対象として、ITを活用した継続的遠距離教育支援サポート ・被災地の子どもたちを対象としたキャンプ・合宿の実施 等
6 自由記載欄	・被災地へのサポートは、被災地のニーズに踏まえてサポートを行う側が絶えず形を変えながら、継続的に支援していくことが今後ますます必要となっていると考えます。今後とも、被災地の方々と共に歩んでいくことのできる震災復興事業を継続していきたいと考えています。 予期せぬ災害が起こった際に迅速に行動を行う上で、鎌倉市より支給頂いた補助金という金銭的なサポートはとてもありがたかったです。
7 連絡先等	・NPO法人全国てらこやネットワークアドレス:info@terakoya-network.com ・NPO法人全国てらこやネットワークHP: http://terakoya-network.com/index.shtml





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	カトリック雪ノ下教会「震災復興支援プロジェクト」
2 団体設立年月日	2011年6月5日
3 代表者名	中山 正士
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動期間 2011年3月末～現在まで</li><li>・活動場所 下記のいずれもカリタスジャパンの支援ベースおよび、カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の支援ベース拠点にして活動中 岩手県 … 宮古市、釜石市、大船渡市 宮城県 … 気仙沼市、登米市米川、石巻市、塩釜市、 福島県 … 福島市宮代仮設住宅、白河市中田仮設住宅、 南相馬市原町の仮設住宅など</li><li>・活動内容 ①がれきの片付け、整理などの活動 ②物質的な支援 ③仮設住宅への傾聴 ④仮設住宅への各種イベントの計画と実施 ⑤雪ノ下教会での定期的なマルシェ 会津若松産の野菜、物産などの販売 南三陸海岸地方の物産販売 福島県川俣町の物産販売 その他、宮古、気仙沼等の物産販売 宮古のサンマ焼きで観光客などに提供 ⑥他</li></ul>
5 今後の活動予定	<ul style="list-style-type: none"><li>・従来の活動の継続と仮設住宅支援のために、シニアボランティアの参加の促進</li><li>・福島産の野菜販売の拡張化(二本松市の野菜販売にも入ります)</li><li>・大槌ベース、米川ベースへの活動強化</li></ul>
6 自由記載欄	震災から1年が経ち、世間の関心が薄れつつあるなかで、いかに皆さんの関心を高め、また協力して頂けるように持っていくことが今後の課題として残ります。 また、福島原発被災地、被災者への支援はこれから本格的になると思います。 被災者への精神的なサポートも含めて、土地の改良、野菜販売などが本格的になりそうです。
7 連絡先等	震災復興支援プロジェクト責任者 中山 正士 スタッフ代表 中島 学



(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	全国訪問ボランティアナースの会キャンナス被災者支援チーム東北 (一般社団法人キャンナス東北)
2 団体設立年月日	1997年3月21日「全国訪問ボランティアナースの会キャンナス」設立。□
3 代表者名	代表理事 菅原由美/1955年生まれ東海大学医療技術短大看護学科卒。
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	・活動期間/2011年3月19日～2012年5月31日(現在も継続活動中) ・活動場所/宮城県石巻市、気仙沼市を中心に活動 ・活動内容等/以下に記載 ■特徴:地域医療(とくに訪問看護)を柱としたチームによる生活密着型のトータルケア。医療の視点・技術をもった一人の人間として、各地域で必要とされることを柔軟かつスピーディーに対応する ■使命:地域に根ざした活動、持続可能な地域社会の復興支援を行う 1) 仮設住宅・自宅での孤独死および衰弱死を出さない 2) 地域での仕事・雇用創出 3) 主体的に自己判断・決定・行動できる次世代の人材を育成する 【活動概要】 1) ころとからだのケア(総合的な健康維持向上) (健康悪化、孤立予防目的の健康相談、戸別訪問、廃用予防目的の体操、コミュニティ再生構築や生活意欲向上を目的とした、お茶会、マジシャンショー・ライブ等の各種イベント企画、炊き出し、物資支援等) 2) 地域医療・福祉の連携サポート (石巻の訪問看護・介護事業所の連携の場、勉強会の企画・運営) 3) 地域啓蒙活動(地域住民、医療・福祉職向け) 【活動人数】 東日本大震災:参加のべ人数8552人 (内訳:医師36人、看護師 5668人、PT・OT 692人、介護士453人、その他ボランティア 1648人) *2012年4月30日時点
5 今後の活動予定	現状の活動を2014年頃まで継続予定。現在、様々な形で事業化を検討中。
6 自由記載欄 (東日本大震災における活動実績)	次ページ記載。
7 連絡先等	キャンナス本部:0466-39-1770 <a href="http://www.nurse.gr.jp/">http://www.nurse.gr.jp/</a> 本部コーディネーター 菅原健介(k.sugahara@nurse.jp)



6 自由記載欄

(東日本大震災における活動実績)

【活動実績】

私たちキャンナスは、日頃、地域医療・介護に携わる看護師中心の組織です。被災者支援活動においてモットーとしているのは、昼夜、また避難所／在宅避難に関わらず、必要としている人に【寄り添う】活動です。このことによって、「我慢強い」と言われる東北の方のニーズを汲み取り、また多くの相談を受け、多様な個別的支援を展開、さらには「こころのケア」につながっています。

3月20日に被災地に入り、生活と急性の医療ニーズが混在する避難所において、ナチンゲール同様に環境整備を基礎としながら、健康上の問題対応、改善に取り組んできました。避難所に泊まり込みをした医療団体のひとつです。また、地域に潜在してしまった「在宅避難者」が生活に困窮者しないよう、アセスメントを実施、地域の資源に結びつけるなど行ってきました。

気仙沼市、石巻市のほか、東松島市、南三陸町ほかでも支援活動を展開。脱水、熱中症、食中毒等、健康悪化予防対策の為の説明等、公衆衛生活動にも取り組んできました。また地域伝統行事の復興サポート、イベントなども実施しております。

避難所閉鎖後は、仮設住宅／在宅者への支援活動をしております。これまでの信頼を活かすことでのこころのケアの実施、また東北エリアに特徴的な医療、介護リソースの不足に対する解決策の提示が主な課題となっております。一日も早く自律、自立した生活が取り戻せるように支援活動を行っております。

1) 避難所での滞在型医療・生活支援: (内容) 気仙沼4カ所、石巻3カ所×平均120日＝看護師のべ3500人、PT・OTのべ300人等が参加。

健康相談15000回以上、公衆衛生周知活動3000回以上

2) 在宅避難者への訪問医療・生活支援

・在宅訪問看護・リハビリ(内容) 訪問 795件

・石巻市渡波地区の在宅アセスメント調査 500件(有効回答133件)

3) 仮設住宅への訪問型医療・生活支援

・石巻市牡鹿半島21カ所(500世帯)、気仙沼1カ所(56世帯) 対象

① 訪問スクリーニング調査500件、アセスメント調査 268件

② ナースによる健康相談・お茶会(246回)

③ PT・OTによる健康体操教室(118回)

4) 物資支援: (内容) 避難所、地域、仮設への支援物資を運搬・配布。

→2・4t車×16回、大型車×200回以上

→ガソリン1000 L、軽油2000L、Dyson掃除機320台、掃除用モップ400本、長靴1000足、大漁旗150枚、水、食料、衣類、暖房器具～生活用品全般)など合計100t程度

5) 地域医療セミナーの企画・実施 3回(地域住民 合計332人来場)



(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	七里ガ浜発 七ヶ浜復興支援隊
2 団体設立年月日	2011年 5月 日
3 代表者名	中里 成光
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>似た地名・地形の縁から東日本大震災において甚大な被害を被った宮城県七ヶ浜町へ鎌倉七里ガ浜から月に1回のボランティアバスを運行させ現地のがれき撤去や仮設住宅での支援を行ってきた。毎回50人程度がバスに乗り現地へ赴き延べ人数約600人が現地で活動をして参りました。</p> <p>2011年 5月末日「七の心をつなぐ」をキーワードに「七里ガ浜発 七ヶ浜復興支援隊」が発足 七里ガ浜町内会、七里ガ浜自治会、七里ガ浜2丁目自治会が後援 6月18日 第1回ボランティアバス支援活動 七ヶ浜海岸(小豆浜、表浜)を清掃 7月17日 第2回支援活動 七ヶ浜海岸(表浜)を清掃 8月 七里ガ浜町内の納涼際にて支援コーナー 活動報告、義捐金箱設置(鎌倉市) 8月28日 第3回支援活動 住宅瓦礫の撤去、仮設住宅にて流しそうめん 9月18日 第4回支援活動 松林倒木の撤去、住宅瓦礫の撤去 10月9日 七ヶ浜町汐見太鼓さんと共に仮設住宅に手と太鼓ワークショップ 10月10日 七ヶ浜で開催された「スポーツフェスタで復興祭り」で湘南しらす丼の炊き出し 10月15日 第5回支援活動 住宅瓦礫撤去、松林清掃、仮設住宅にてベンチ製作 11月12日 第6回支援活動 菖蒲田浜松林清掃、仮設住宅にてベンチ製作 11月13日 七ヶ浜で開催された「多賀城大復興祭り」で湘南しらす丼の炊き出し 11月19日 江ノ電SKIP号にて七ヶ浜町の小学生が描いた絵画等を展示(12月14日まで) 12月11日 第7回支援活動 住宅瓦礫撤去、仮設住宅にてリース製作</p> <p>2012年 1月16日 七ヶ浜町、石巻にアウター300 着届ける 1月22日 第8回支援活動 仮設住宅の除雪支援、餅つきの炊き出し 2月18日 第9回支援活動 田んぼの瓦礫除去作業 3月11日 「3.11～七の心をつなぐ～」(鎌倉市鎌倉プリンスホテルにて) 七ヶ浜町よりパーカッショングループ“Groove7”来鎌 3月17日 第10回支援活動 側溝の泥除去(宮城県山元町にて) 4月7日 7topaz が七ヶ浜町内の仮設住宅にてライブパフォーマンス 4月15日 第11回支援活動 田んぼのがれき撤去、仮設住宅での畑作り開始 4月21日 臨時畑開墾作業(七ヶ浜町仮設住宅にて) 5月19日 第12回支援活動 田んぼのがれき撤去、仮設住宅での畑作り</p>
5 今後の活動予定	<p>本支援隊はボランティアバスの運行を基本に行って参りましたが、少しずつ現地のニーズも変わってきております。その都度臨機応変にニーズに応え地道に活動していく事で、少しでも力になれるよう継続した支援活動を目指します。まず仮設住宅入居者と一緒に畑作りを皮切りに今後10年間を目途に様々な支援活動を行う予定です。</p> <p>&lt;直近の予定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・6月16日 第13回ボランティアバス運行 田んぼのがれき撤去、仮設住宅での畑作り</li><li>・7月6日 発バスでは(高校生未満を対象)親子ボランティア&amp;現地交流1泊3日にて計画中</li></ul>
6 自由記載欄	<p>本支援を続けるにあたり鎌倉市よりのガソリン代補助とボランティア保険の助成金が大変助かった事をお礼申し上げます。また、本市が大災害にみまわれた際はこれまで参加した延べ600人の鎌倉市民は非常に大きな役割を担えるのではないかと確信しております。</p> <p>Blog <a href="http://bond7.sblo.jp/">http://bond7.sblo.jp/</a> Facebook <a href="http://www.facebook.com/7w7mind">http://www.facebook.com/7w7mind</a></p>
7 連絡先等	shichigahamashientai@yahoo.co.jp





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	鶴岡八幡宮 槐の会(鶴岡八幡宮職員有志含む)
2 団体設立年月日	平成18年 4月 1日
3 代表者名	会長 吉田 茂穂
4 支援活動の内容	<p>「復興支援ブース」の設置</p> <p>■期日 平成23年4月11日～(5月15日までは毎日開設・7月以降は週末開設) 平成24年3月10,11日、(4月10日以降5月6日まで週末開設)</p> <p>■場所 鶴岡八幡宮舞殿西庭</p> <p>■内容 1.「日本赤十字社義援金」の募集(終了) 2.「復興支援物資調達資金(支援金)」の募集 3.「復興を祈る千羽鶴」の作成</p> <p>※平成24年1月1日以降は、「復興支援活動資金(支援金)」として随時境内にて募集</p> <p>「緊急支援物資・復興支援物資搬送活動」の実施</p> <p>■実施期日と派遣人員(鶴岡八幡宮職員)</p> <p>第一次支援活動 平成23年3月25日～27日 ワゴン車2台・職員4名派遣 第二次支援活動 平成23年4月19日～21日 ワゴン車2台・職員4名派遣 第三次支援活動 平成23年6月19日～20日 2トン車1台・職員2名派遣 第四次支援活動 平成23年8月26日～28日 2トン車1台・職員2名派遣 第五次支援活動 平成23年11月16日～18日 職員合計80名派遣 平成23年11月24日～26日 第六次支援活動 平成24年2月28日～29日 職員2名派遣</p> <p>■支援対象地及び物資搬送先</p> <p>&lt;第一次・二次支援&gt; 宮城県南地域(角田市・亘理町・山元町)の各避難所等</p> <p>&lt;第三次支援&gt; 宮城県内被災地の児童・生徒等(受先:宮城県PTA連合会) 宮城県中央地域の避難所(主に南三陸町方面からの避難者受入先)</p> <p>&lt;第四次支援&gt; 宮城県内被災地の児童・生徒等(受入先:宮城県PTA連合会) 宮城県気仙沼市大島(島内大島神社受入先)</p> <p>&lt;第五次支援&gt; 岩手県陸前高田</p> <p>&lt;第六次支援&gt; 宮城県内被災地の児童・生徒等(受入先:宮城県PTA連合会) 宮城県南地域 角田市、白石市、蔵王町各自治体(宮城県熱日高彦神社受入先) 宮城県気仙沼市大島(島内大島神社受入先)</p> <p>■活動内容 第1,2次支援活動は、当会に寄せられた下着、衣料品やサニタリー用品を、第3,4次支援活動では、「復興支援ブース」に寄せられた支援金を、被災地で必要とされた物資(辞書1000冊他)に替えお届けした。5次支援活動では鶴岡八幡宮有志職員約80名が陸前高田にて耕地復元作業に従事、6次支援活動では、桜の苗木他合計110本の苗木の寄贈を実施、また、被災小中学校で必要とされる学用品等の購入に充てる義援金100万円を、宮城県PTA連合会会長へ贈呈した。</p>
5 今後の活動予定	前年度に引き続き、鶴岡八幡宮の境内での「復興支援ブース」での支援の呼びかけの他、物資等「物」の支援から、「こころ」の支援に活動をシフトして実施して行く予定です。現在は、宮城県PTA連合会後援のもと、宮城県被災小中学校の生徒からメッセージを募り、鎌倉で発信することで、被災地への継続的な復興支援活動の必要性を喚起する活動や、福島県の高校生による合唱団を祭事に招聘するなどの、活動を予定しています。
6 自由記載欄	<p><b>活動報告URL</b></p> <p><a href="http://news.hachimangu.or.jp/dispdtinfo.asp?prm=&amp;M_ID=148&amp;C_ID=3">http://news.hachimangu.or.jp/dispdtinfo.asp?prm=&amp;M_ID=148&amp;C_ID=3</a></p>
7 連絡先等	〒248-8588 鎌倉市雪ノ下2-1-31 鶴岡八幡宮社務所内 TEL 0467-22-0315(代表) FAX 0467-22-4667 E-mail enju@hachimangu.or.jp





鶴岡八幡宮境内「復興支援ブース」



第一次支援活動 山元町への物資搬送



第二次支援活動 避難所の子どもたちに児童書を提供



第三次支援活動 宮城県PTA連合会へ辞書千冊を寄贈



第五次支援活動 陸前高田における耕地復元作業



第六次支援活動 宮城県小中学校へ桜の苗木を寄贈

鶴岡八幡宮 槐の会(鶴岡八幡宮職員有志含む)

(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	鎌倉ワイズメンズクラブ
2 団体設立年月日	1992年3月15日
3 代表者名	会長 池田光司
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>・2011年5月7日, 鎌倉市役所前にて、東日本復興支援バザーにて鎌倉YMCAとともに、物産販売を行い売り上げを寄付した。</p> <p>・被災地ボランティア第一次、2011年8月2日～11日 岩手県宮古市にて、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを拠点として、各地のワイズメンズクラブの支援をうけ二名参加、支援に集まったボランティアの協同で、瓦礫撤去、被災住宅整理、清掃、仮設住宅支援物資配布作業、炊き出し焼きそば、たこ焼きサービス他を行った。</p> <p>・被災地ボランティア第二次、2011年12月, 同じ宮古市にて同ボランティアセンターでワイズメンズクラブ支援を受け二名参加前回同様に、瓦礫撤去、被災住宅整理、清掃、仮設住宅訪問支援、炊き出し、そして参加メンバーの自慢の静岡県富士宮焼きそば400食を被災地仮設住宅二箇所にてサービス、大好評。鎌倉市社会福祉協議会、被災地派遣高速道路無料適用など支援を得た。</p>
5 今後の活動予定	宮古ボランティアセンター並びに石巻ボランティアセンターなどの拠点で展開される活動を永く支援して行く予定。
6 自由記載欄	鎌倉市内や富士宮市のメンバーが参加したが、多くの方が抱くボランティアの意志を集め、被災地の情勢を把握したスタッフのいる拠点として、これからも被災地復興に幅広い活動し少しでも役立ちたい。
7 連絡先等	鎌倉ワイズメンズクラブ 池田光司 km200897@u01.gate01.com 鎌倉YMCA 鎌倉市御成町13-33 0467-24-7859





(団体用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 団体名称	社会福祉法人 鎌倉市社会福祉協議会
2 団体設立年月日	昭和27年2月10日 (昭和50年12月24日に「社会福祉法人」として法人化)
3 代表者名	会長 梅澤 淑弼
4 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	鎌倉市と協働して、鎌倉市内在住・在勤者によるボランティアバスを運行 <b>【第1期】</b> 第1回 H23.6.17(金)～19(日) 宮城県亘理郡山元町(19名) イチゴ園の泥出し 第2回 H23.6.24(金)～26(日) 宮城県亘理郡山元町(20名) 側溝の泥出し・イチゴ園の整備 第3回 H23.7.1(金)～3(日) 宮城県亘理郡山元町(20名) 側溝の泥出し 第4回 H23.7.8(金)～10(日) 宮城県亘理郡山元町(20名) 側溝の泥出し・民家敷地の泥出し <b>【第2期】</b> 第1回 H23.9.29(木)～10.1(土) 宮城県石巻市(17名) 牡鹿半島大原浜にてがれきの撤去・分別、吉野町にて 側溝の泥出し 第2回 H23.10.7(金)～9(日) 宮城県本吉郡南三陸町(20名) 津の宮地区にて養殖いかだのおもり製作、天王前地区にて 側溝の泥出し 第3回 H23.10.13(木)～15(土) 宮城県石巻市(20名) 牡鹿半島鮫ノ浦にてがれきの撤去及び分別、湊町の側溝の 泥出し 第4回 H23.10.21(金)～23(日) 宮城県本吉郡南三陸町(20名) 伊里前地区、大森地区にてがれきの撤去及び分別 第5回 H23.10.27(木)～29(土) 宮城県石巻市(20名) 牡鹿半島十八成浜にて田んぼの草刈りとがれきの撤去 及び分別、湊町の側溝の泥出し 第6回 H23.11.4(金)～6(日) 宮城県本吉郡南三陸町(19名) 伊里前地区にてがれきの撤去・分別、廻館地区にて側溝の 泥出し・がれき撤去 <b>【第3期】</b> 第1回 H24.3.8(木)～10(土) 宮城県亘理郡山元町(20名) 個人宅敷地の小がれき撤去及び分別、イチゴ園の整備 第2回 H24.3.15(木)～17(土) 宮城県亘理郡山元町(20名) 畑の小がれき撤去及び分別、側溝の草取り及びがれき処理 第3回 H24.3.22(木)～24(土) 宮城県亘理郡山元町(20名) 畑の小がれき撤去及び分別
5 今後の活動予定	各種助成の状況及び被災地ニーズを把握しながら実施したい。
6 自由記載欄	
7 連絡先等	住所: 〒248-0012 鎌倉市御成町20-21 電話: 0467-23-1075 FAX: 0467-22-2213 e-mail: info@kamakura-shakyo.jp





(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	片山直文
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	平成23年6月2日～6月6日 宮城県岩沼市 瓦礫の撤去、泥のかき出し  平成23年7月30日～8月2日 陸前高田市、大槌町、釜石市 瓦礫の撤去、汚泥のかき出し、側溝の泥だし
3 今後の活動予定	福島での除染ボランティアを計画していましたが、今春より仕事が忙しく活動していません。今夏から秋にかけて福島での除染、又は岩手、宮城でのボランティア活動ができればと思っています。
4 自由記載欄	岩沼市の津波被災家屋の瓦礫の撤去をしました。300坪位の庭全体に、屋根、鉄パイプ倒木等の瓦礫が堆積していました。20名のボランティアで一日かけて撤去できました。ご主人が最後にボランティアに挨拶されましたが、朝のときのうつろな、呆然としたのと異なり、喜びと希望をもった本当に心のこもったご挨拶でした。やりがいのある一日でした。
5 連絡先等	kataya12@hb.tp1.jp

(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	下田 一輝
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	<p>・直接現地支援 H23.5.7～H24.5現在で計64日間9回訪問 鎌倉市では柞の森西ヶ谷団地定期交流会参加(福島からの避難者対象) H24.2.11～5.26 計7回、第二、四土曜日生涯学習センター(駅前)にて鎌倉物産展参加、5.27鎌倉市場参加</p> <p>・活動場所 福島県相馬市 宮城県気仙沼市、南三陸町、登米市、石巻市 岩手県藤沢町、千厩 鎌倉市内、主にはRQ市民災害教育センターというボランティア組織に属す。福島のみ横浜寿町診療所の医療チームとして参加</p> <p>・看護師としての活動①避難所、仮設住宅、個人住宅を回り健康相談心のケア ②カフェやフリーマーケットでの健康相談ブースの設置③気仙沼大島での患者送迎(上野さま、つなごうプロジェクトと共に)④仮設志津川病院外来業務(アムダにて) ⑤シェアの看護師会議参加⑥地元保健師との情報交換 ⑦湯たんぼ、手作りカバーを配達⑧大川小学校生徒との交流、物資支援</p> <p>・一般ボランティアとしての活動①物資、水の配達②海岸等ガレキ撤去③避難所の引越し手伝い④昼の個人宅配送⑤物資の仕分け⑥ウジ虫退治⑦湯たんぼ、手作り湯たんぼカバーを送る活動参加⑧ワカメ仕分け作業⑨仮設住宅、個人避難地区での手仕事支援(鎌倉よりミシン、布など送る)</p>
3 今後の活動予定	<p>・RQ市民災害教育センターとしては定期的に鎌倉物産展に参加し、現地の手仕事支援をしてゆく。現地フリーペーパーなども配り被災地の今を情報提供してゆく。バラのエコタワシを卒業式などのコサージュとして使用して頂くプロジェクト進行中。現地へは、2ヶ月に一度程度の訪問を予定(次回6月5週目)</p> <p>交流を深め鎌倉物産展に売子として現地の方々を招待したい。</p> <p>・「被災地に湯たんぼと手作りカバーを送ろう」という活動は継続。</p> <p>・埼玉自由の森学園の生徒さん方をRQへ招待、実体験して欲しい。</p> <p>・家族旅行3度目現地小学生と文通などを行っている。</p>
4 自由記載欄	<p>個人的な活動ですが、鎌倉でもいろいろな方と知り合うことができました。この様なネットワーク作りはとても大切だと実感しています。東海沖地震が起これば鎌倉市役所、いくつもの病院も津波にのまれてしまうかもしれません。備えが必要だと思います。</p>
5 連絡先等	ecoclub1422@gmail.com

(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	北山 文也、北山 眞理子
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	昨年5月より今年5月まで約月1回(延べ日数30日)、夫婦2人で参加しました。数回は娘も同行し活動しました。活動場所は福島県いわき市の津波被害(後半は地震被害も)の地区です。一日だけ、宮城県七ヶ浜町にも行きました。活動はいわき市のボランティアセンターで5~30人位のチームになり各人の車に分乗して活動場所に向かう。活動場所まで30分~1時間ほどかかり当初はマッチングに時間もかかり活動開始が11時ころになることもある。活動内容は屋内、屋外の瓦礫の撤去作業、土砂に混ざっているガラス、木材等の異物分別する。当初は廃棄する場所も決まっていなかったため道路わきに出し積み重ねる。その後、市の集積所が決まってからはそこまでの運搬作業も同時に行った。
3 今後の活動予定	いわき市のニーズは週1件(数人)程度に減ったので今後は南相馬の原発避難解除地区を考えています。
4 自由記載欄	
5 連絡先等	





江名地区



小名浜海星高校



勿来地区

(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	藍 智子
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	活動期間 2011年4月2日～現在 活動場所 福島県各所及び住民の避難先 活動内容 原発避難区域住民の荷物の搬出・家屋片付け支援、ペット保護の支援、 ペットの預りや世話・通院の支援、物資の搬送支援、住民の送迎支援など
3 今後の活動予定	要請がある限り続ける予定。要請は直接地元住民から受けており、ボランティア団体などは通していない。
4 自由記載欄	週末上限1,000円がなくなり、災害派遣車両用通行証の発行がなくなり、水戸以北の高速料金無料化も終わり、高速料金・ガソリン代が大きな壁となっている。現在は月に1～2回に回数を減らし、可能な限り週末や深夜割引を利用するスケジュールにしている。
5 連絡先等	





(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	秋本 宏
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	岩手県遠野まごころネット(社会福祉協議会前)玄関前に7時15分集合、ラジオ体操、朝礼、活動内容の説明・募集をかけ、バスに乗り各被災地に向かいました。 平成23年5月14日～5月27日 平成23年5月31日～6月10日 5/14 釜石市大渡町 雑居ビル地下の清掃、駐車場及びU字溝の泥かき。 5/15 陸前高田市米崎町 田及び用水路のガレキ撤去、整理。 5/16 大槌町桜木町 民家のヘドロ排出。 5/17 陸前高田市米崎町 田のガレキ撤去、整理。 5/18 大槌町桜木町 民家床下及び庭のヘドロ排出。 5/19 釜石市只越町 2階建アパート内外のガレキ撤去、整理。 5/20 遠野市内 九州より到着の支援物資(布団)の一時保管倉庫内への搬入。 5/21 大槌町桜木町 民家より搬出されたヘドロの運搬。 5/22 雨天のため活動中止。 5/23～25 大槌町小槌 民家の床ハガシ、ヘドロ排出、床用ネタ復旧。 5/26 陸前高田市米崎町 民家床ハガシ及びヘドロ排出。 5/27 大槌町桜木町 民家床ハガシ及びヘドロ排出。 5/31 陸前高田市小友町 現地到着後、前日の雨で田の水が多く中止。 6/1 陸前高田市米崎町 民家横畑のガレキ撤去。 6/2 釜石市只越町 呉服店駐車場のガレキ撤去及び2階水没家具の解体。(後日家の中を片付けるために駐車場を整理) 6/3 花巻市田瀬湖 宮古高校漕艇部国体に向けての週末合宿のための食材買い出し及び運搬。(練習場所が被災したため内部に練習場所を移動) 6/4～6 釜石市箱崎町 個人造船所及び神社鳥居下のヘドロ搬出。 6/7～10 大槌町桜木町 民家床張り。(2軒) ※釜石市只越町は釜石ボランティアセンターよりの依頼による応援活動。
3 今後の活動予定	未定
4 自由記載欄	・何か役に立ちたくボランティアセンターを探したところ、岩手県遠野まごころネットが個人受付可能だったので遠野に決めました。(遠野の被災箇所は市役所のみ) ・社会福祉協議会併設の体育館を宿泊施設にして(仮設トイレ及びシャワーのみ設置)、日本全国からボランティアが参集、17時30分から当日の報告会を行いました。今後の活動用に被災者訪問を行うグループもありました。神奈川県内で被害が少ない市町村でこのようなボランティアセンターができれば良いと思います。 ・テレビと違い、生で被災地を見たときは、悲惨さに涙が出てきてしまいました。 ・釜石市只越町で防災無線が故障して津波直前まで犬の散歩をしている人がいたとの話を聞きました。 ・最終日の昼に、違うセンターから来た人と話をしたら、同じ町内の人だったので驚き、感激しました。 ・災害派遣従事車両証明書の発行が市長決裁でした。他にも多数有ると思います。担当課長決裁にしてスムーズにするべきだと思います。 ・写真撮影は基本的に禁止だったので活動写真は有りません。
5 連絡先等	

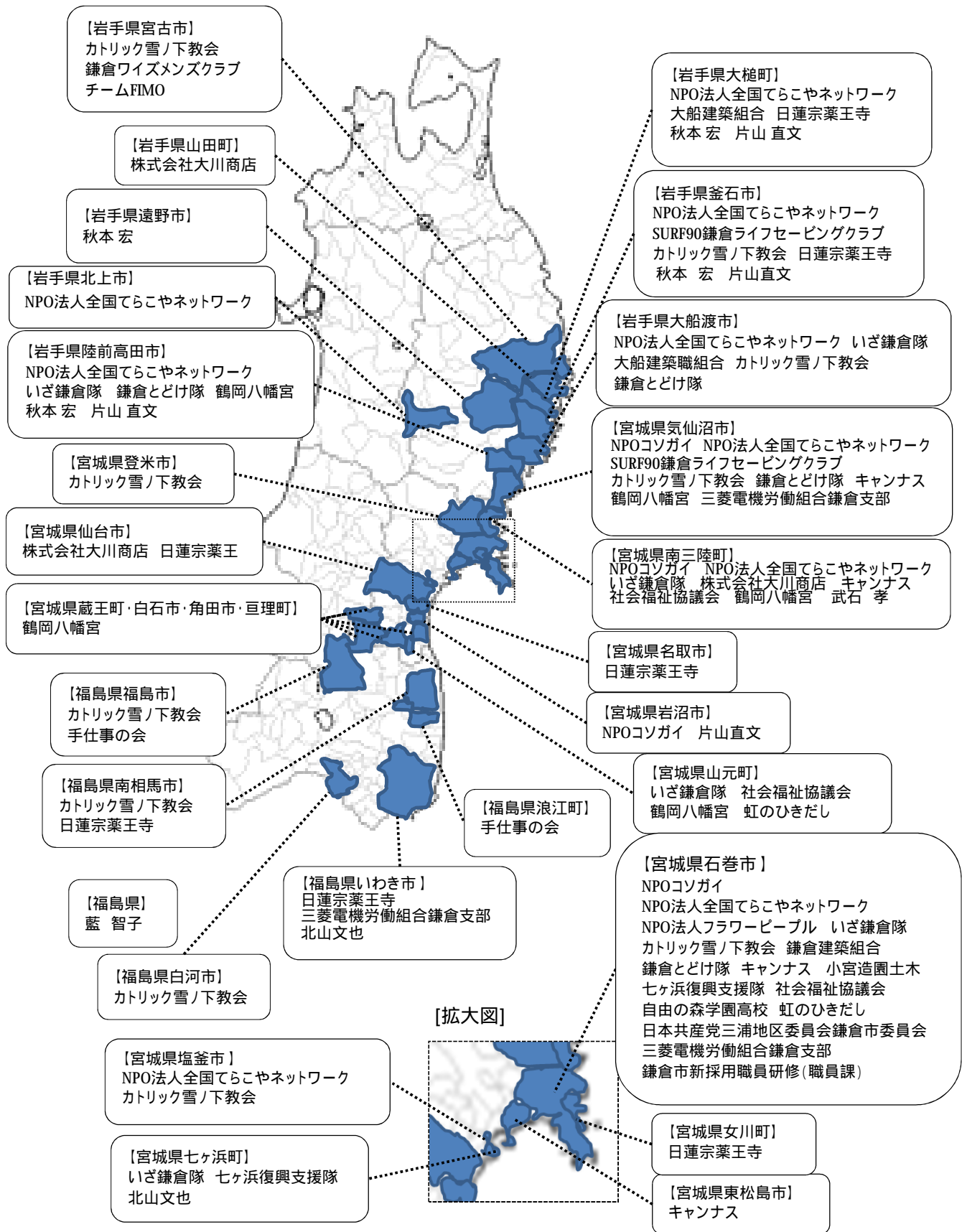
(個人用)

東日本大震災支援活動団体活動内容報告書(平成23年度)

1 氏名	武石 孝
2 支援活動の内容 ・活動期間 ・活動場所 ・活動内容 等	◎5月 7月それぞれ二日間 宮城県南三陸町 思い出の写真やアルバムの展示会の案内など・避難場所閉鎖に伴う物資 片づけ・住民への生活用品の支給手伝い ◎9月 10月 11月 12月それぞれ三日間 宮城県南三陸町 がれき撤去・漁業支援(養殖用の漁具作りなど)側溝の泥出し作業 ◎1月 3月それぞれ二日間 宮城県南三陸町 がれき撤去
3 今後の活動予定	・4月以降も毎月継続して南三陸町へ通っている。
4 自由記載欄	・企業や学校などの団体ボランティアは、活動報告のために写真撮影は許 可されていたが個人に関しては、活動中の撮影は禁止されていたので活動 中の記録は残念ながらありません。
5 連絡先等	PC taketaka@d3.dion.ne.jp



# 報告書に掲載されている団体・個人の活動場所



## 大震災の比較

項 目	関東大震災	阪神淡路大震災	東日本大震災
発生日時	1923年9月1日 11時58分	1995年1月17日 5時46分	2011年3月11日 14時46分
震源地	相模湾北西沖	淡路島北部沖 明石海峡	三陸沖
震源の深さ	80km	16km	24km
マグニチュード	7.9	7.3	9.0
最大震度	震度7	震度7	震度7
地震の種類	海溝型地震	内陸地震	海溝型地震
主な被災都府県	東京都・神奈川県 千葉県・埼玉県	兵庫県	岩手県・宮城県 福島県・茨城県 千葉県
死者数	105,385人	6,434人	15,867人 (24年7月25日 警察庁発表)
行方不明者数	-	3人	2,904人 (同発表)
負傷者数	約103,700人	43,792人	6,107人 (同発表)
合 計	約209,085人	50,299人	24,880人 (同発表)
倒壊建物数			全壊130,442戸 半壊264,033戸 (同発表)

## 鎌倉市被災者支援事業について

### 1 被災者の受け入れ状況(24年7月18日現在)

- (1) 避難者数 70世帯 171名
- (2) 被災元 福島県 51世帯 130名、宮城県 13世帯 23名、岩手県 1世帯 1名、茨城県 5世帯 17名
- (3) 男女別 男 72名、女 99名
- (4) 避難者の年齢

0～6歳	27名
7～15歳	18名
16～29歳	28名
30～39歳	25名
40～49歳	21名
50～59歳	18名
60～64歳	7名
65歳以上	27名

### 2 被災地支援

- (1) 市の人的支援(7月18日現在)
  - ア 緊急消防援助隊 延べ 29名(仙台市他)
  - イ 被災宅地危険度判定士 3名(仙台市)
  - ウ 保健師 1名(釜石市)
  - エ 一般職員(避難所・一般行政事務、建物被害認定調査業務等) 17名(石巻市、山元町、仙台市)
    - \* 新規採用職員追研修 35名(引率 3名を含む。石巻市)
    - \* 長期派遣 1名(山元町 まち復興計画の策定 24年4月23日～25年3月末日)
- (2) 支援物資の提供
  - ア アルファ米(1,000食) 3月30日仙台市へ
  - イ 毛布(1,000枚)
  - ウ 自転車(42台) 鎌倉商工会議所と連携
  - エ 市民からの支援物資(合計 199,401点) 県を通じて提供
- (3) 日本赤十字社東日本大震災義援金(7月末日現在)  
45,387,567円
- (4) 鎌倉市東日本大震災被災者救援募金(7月末日現在)  
33,677,151円

### 3 被災者支援

No.	支援事業名	支援事業の概要
①	住宅提供支援事業	・雇用促進住宅・民間賃貸住宅の入居支援
②	生活支援事業	・入居支度金(1世帯あたり一律10万円) ・年末一時金 ・住宅家賃補助(上限月額5万円) ・生活支援金(月額一律3万円) ・リユースネット(不用品登録制度)
③	就労支援事業	・鎌倉市がアルバイトとして雇用6名 ・就労資金貸付事業1件
④	余暇くつろぎ事業	・市内で開催される行事や施設への招待 ・浪江町との交流事業(みらいふる鎌倉)など ・避難者余暇くつろぎ事業(2月10~11日)箱根湯本温泉32名
⑤	被災地へのボランティア活動支援事業	・ボランティア保険加入を支援 ・燃料費補助(被災地へ向かう車両で、市が災害派遣等従事車両証明書を発行したものに一律6,000円を補助) ・災害ボランティアバス運行 ① 宮城県山元町 6月17日から7月10日 4回、79名参加 ② 石巻市・南三陸町 9月29日から11月6日、6回、116名参加 ③ 宮城県山元町 24年3月8日から24日 3回、60名参加

### 4 災害派遣等従事車両証明書発行(7月31日現在)

- (1)活動団体・個人数:100を超える団体・個人に対し、延べ429車両、3166枚を交付
- (2)活動場所:宮城県(石巻市、南三陸町、気仙沼市など)260件、岩手県(釜石市、陸前高田市、大船渡市など)80件、福島県(南相馬市など)87件、その他2件
- (3)活動内容:瓦礫撤去、泥出し、炊き出し、支援物資運搬、医療活動など
- (4)支援期限:福島県、宮城県、岩手県(~24年9月30日)